

事實であるから多言は要しない。

日本の労働組合運動二十数年に及び、労働組合が依然大成しない最も大きい原因は労資は根本的に対立抗争すべきものであると言ふ觀念が社會一般に固着してゐることにあつた。

労働階級は資本家階級とは利害關係が根本的に相反するので労働組合は資本家と戦ふことによつてのみその目的が達成されるものであると過去の闘争第一主義の建前から主張、宣傳し、労働組合の大會や委員會では實力以上の闘争的な決議を繰り返してゐたので資本家は労働組合はストライキ専門の闘争團體で危険極るものであるとして全力を盡して労働組合を壓迫した。

組合員も労働組合は資本家と戦つて組合員の労働條件を改善させるのが目的であるから、今

八

月十錢の組合費を拂へば來月は五十錢の賃金値上げになつて返つて來るよりに思ひこんで、ストライキをしない組合は無力の様に言ひ立て盆々労働組合を危険物化してしまつた。

労働組合は労働組合で階級的立場を固執して國民全體の協力、支持を排して、自から孤立して労働組合の實力を失つてしまつた。これでは労働組合が大成出来る筈はない。

茲で特に留意したいのは労働組合の實力以上の宣傳決議である。實力以上の無理な決議でも決議した限り労働組合は之を處理せねばならぬ實現出来ない決議は労働組合の信頼を失ふ因である。無理、矢理に實力以上の決議を實行すれば労資双方共倒れになるより外はない。だから組合員諸君は無理な決議を組合に持ちこむこと

は組合の實力を損傷することになるのを充分に心得へて、特別の注意と慎重な考慮を以て組合の實力と決議すべき事項を比較、對照して事に

▽ 産業 協力 運動

かくて、過去の労働運動の缺陷と誤謬を清算し、労資双方の信頼の中に強固なる基礎を置いて緊密なる統制と秩序を以て組織されたる健全なる労働組合は何に沿つて進むべきであるか。

私は産業協力運動を説く前に從來の所謂勞資協調に就いて一言したい。私共の産業協力は決して資本家に盲目的に追従する勞資協調主義ではない。在來の勞資協調は資本家の一方的御都合主義で、資本の強力な壓迫で、封建的舊道德の上に労働階級を押し付けて強要する所謂資本

臨まれ決して無理な決議を組合へ持ちこまないようにされたい。

家の温情主義である。資本家の御都合次第で労働者を家族主義の温情で懐柔するが資本家の都合の悪い時は自由自在に労働者を解雇し、賃金を引き下げ、労働を強化する。温情でクビを切る家族主義などは封建時代でもなかつた道徳である。

特に温情主義の勞資協調は資本家の一方的都合で労働者に強制したものであるから、何らかの機會に労働者の不平、不満が爆發して産業の平和を破壊することが起る。

九